



和のこころ 日本の知恵

和楽舎代表 辻川 牧子様

卓話者紹介

俣野 幸昭会員

参勤交代など、全国から大勢の人が集まった江戸。その江戸に暮らした人々が残した知恵の数々に心惹かれて学びをはじめ、次第に日本各地に伝わる先人の生き方に興味を抱くようになり、現在は、カウンセラーの経験に基づいた心の持ち方を大切にする視点で講演や研修に携わっていらっしゃいます。言葉と挨拶・人間関係・商売繁盛・作法・子育て・助け合い・養生法・自然に添う暮らし方など、先人の知恵の数々が今の世に活かされることを願い、各地の企業や公共団体、学校、神社、寺院等で活動されています。

(テレビ・ラジオ出演)

NHK『視点論点』、『ひるまえほっと』、『おしゃれ工房』、大阪朝日放送『おはようパーソナリティ道上洋三です』等。

(著書)

『日本のしきたり和のこころ』(kkロングセラーズ) 『ごはん』、『繁盛心得』ともに(博進堂)

○はじめに

幕末から明治時代にかけて来日した外国人の多くが美しい日本の自然と、質素ながらも満ち足りた様子で穏やかに暮らす当時の人々の姿を記録に遺しました。物は少なくても、現代とはまた違った豊かさが、かつての我が国には存在していたようです。

本日は江戸を中心に日本各地に伝わる先人の知恵を少しご紹介させていただきます。

○傍楽(はたらく)

「働く」という文字は「人が動くから働く。頭と心と体をしっかり動かして働きなさい」といい、同時に、働くには日々の暮らしのための「稼ぐ」と周りの人を楽にする「傍楽(はたらく)」という意味があると寺子屋では教えていたと言われています。この傍楽が出来て男も女も一人前とされました。地域によっては傍楽を「仕事」と呼びました。「稼ぎ三分の仕事七分」として、周囲の人々のために貢献することに重きを置いていたところもあったそうです。

古くから日本では米作りをしてきました。現在のように機械化されていなかった時代、田植えや稲刈り、水路の確保などは共同の作業です。集団の周りの人々のために働くことが結局のところ、自分を助けることに繋がりました。

また、我が国は四季の恵み豊かな国ですが地震・津波台風・火山噴火などの自然災害に度々見舞われてきました。江戸時代だけでも180回を超える火山の噴火が記録されています。災害からの復興は一人ではできません。助け合うことは、自らを助けることでもあり、この列島で生き抜くためには不可欠なことでした。

「お互い様」、「明日は我が身」などの言葉が交わされて、助け合いの輪が広がっていたようです。

○人みな互角

江戸時代、士農工商という身分の制度はありましたが神仏の前では「人みな互角」と考える人も少なくなかったとか。

幕末に訪れた西洋の人々の記録には「上の人が下の人を丁寧扱って威張っていない」と書かれているものがあります。来日前は、日本は厳しい専制政治のもと庶民が苦しんでいる階級社会であると先入観を抱いていたが、実際に来てみたところ、村でも、町でも人々が生き活きと生活していることに驚いています。

わが国では「同じ釜の飯を食う」という言葉が使われて来ました。同じ釜で炊いた飯を食べ、共に汗を流して働く時、家族のような意識が芽生えます。働く者をいたわる気風もありました。

下働きの人の名前あとに「どん」つけて呼ぶ場面が時代劇で見られます。この「どん」は、漢字の「殿」が変化した言葉。世界広しといえども、自分に仕える者や従い働く者に敬称をつけて呼ぶ国は日本だけではないかと言われます。

特に、江戸の下町では他者に対する敬意や誠意、互角の思いを大事にする人が多く、威張ること、弱い者いじめは最低の行為とみなされたそうです。大店では小僧さんに「おはようございます」と挨拶されましたら、多くの主は立ち止まって、「おはようございます」と丁寧挨拶を返したといわれています。相手が若く目下でも互角の敬意を払うのが人の道でした。

○言霊

いにしえより、言葉には言霊が宿るとされてまいりました。言葉には良いことも悪いことも引き寄せる大きな力があるので、大事にしなければならぬと。万葉集にも「言霊の幸ふ国」とあり、我が国は言霊の力によって幸せがもたらされる国と詠まれています。江戸の町でも人の胸を刺すような言葉や不快な言葉を避け、めでたい言葉、聞いて気持ちの良い言葉を心がけるように子どもたちは幼い頃から躾けられていました。

現代の脳科学でも、言葉が私たちの心や体に大きな影響を及ぼすことが指摘されています。

○むすびに

「情けは人のためならず」という諺があります。人に情けをかけると甘やかすことになるので、かえって相手のためにならないと解釈している人が数年前の調査では4割を超えていました。本来の意味は人に優しくしておく、いつか廻り廻って自分や自分の大切な人のもとに思いやりが戻ってくるというも。元々の意味が活きていた頃は町や村にたくさんの「思いやり」がプールのされていたような気がいたします。

かつて人々は「三代続けば七代続く七代続けば末代続く」と、自分の代だけでなく、孫子の代を見据えて田畑や山林、店や町を遺しました。微力ながら、私も、暮らしやすい世の中を次の世代に手渡していきたいと願っております。

江戸の粋は心意気の粋。なかでも、世間様のためになることをし続けることが、最高の粋でしたとか。社会への貢献を実践され続けておられます。

ロータリークラブの皆様は粋な方々でいらっしゃいます。どうぞお健やかにご活躍くださいませ。益々のご隆昌をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

閉会点鐘

牛島 聡会長

創立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
グランドメゾン九段906号
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
会長 牛島 聡 幹事 青木 隆幸
会報 山下 秀一(委員長) 山田 丈夫(副委員長)
土居岩生 木宮雅徳 小林大介 永井一史(委員)